



第19回 積丹観光

フォトコンテスト

PHOTO CONTEST



グランプリ 葛西敏夫さん「厚苔岬」

第19回積丹観光フォトコンテスト（積丹観光協会主催、全日本写真連盟積丹支部主管、積丹町など後援）の審査が行われ、町内外95点の応募作品の中から、グランプリの積丹町長賞に積丹町美国町の葛西敏夫さんの作品『厚苔岬』が選ばれました。その他の入賞者は次のとおりです。

- 準グランプリ
 - 「朝霧漂う」 柳渡 利雄さん（余市町）
 - 「なぎさ夕映え」 石岡 誠三さん（余市町）
 - 「黒潮」 嵯峨 秋雄さん（小樽市）
 - 優秀賞
 - 「湯つ陽」 松野 力さん（小樽市）
 - 「道」 嵯峨 秋雄さん（小樽市）
 - 「天狗の火渡り」 奥田 順久さん（大阪府）
 - 「天狗と岬」 井端 順司さん（積丹町）
 - 「宝島とゴメ島」 大音 勇人さん（滋賀県）
 - 「夕照」 東 久子さん（札幌市）

入賞作品については、積丹観光協会のホームページにも公開しています。



- 「遠い春」 榎 英子さん（札幌市）
- 「星雲（せいうん）」 小野 嘉春さん（札幌市）
- 「喜ぶ小若」 金子 勝彦さん（余市町）
- 【あなたの思い出に残る積丹の風景部門】
- デジタルカメラによる応募が可能となり、応募総数134点の中から16作品が入賞しております。
- グランプリ 「Sun set に誓つ」 奥田 恵理さん（札幌市）

栄えある
叙勲

地域防災に尽力

成田 竹義さん（幌武意町）

瑞宝単光章

平成19年秋の叙勲において、11月3日付けで、幌武意町の成田竹義さんが瑞宝単光章を受章されました。

成田さんは、昭和28年に消防団入団以来、漁業を営むかたわら、41年間の長きにわたり防災活動に尽力し、火災はもとよりあらゆる災害現場の第一線で活躍されてきました。また昭和62年から7年間は、第二分団（幌武意町）の分団長として防火思

想の高揚、地域の治安維持に尽力されてきました。

伝達式は、12月5日役場町長室で町及び消防関係者の臨席のもと益子町長から伝達されました。

成田さんは「受賞したと聞いたときは大変驚きました。地域の安全を守るといふ当たり前のことをしてきただけです。」と謙遜しながら話していました。

この受章を心から祝福するとともに今後ますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。



旬の味覚

すしや鍋に舌鼓

今年も盛況「どっこい積丹冬の陣」

今年も外国人事業者も参加

初冬の集客イベントとして取り組み今年で6年目となる「どっこい積丹冬の陣」同実行委員会主催）が行われました。

第1弾「鮭と鍋」は、11月17日、町総合文化センターで開かれ、道内各地から観光バスやマイカーで訪れた約1、200人は積丹の旬の味覚を堪能していました。

鮭職人と地元料理人が腕によりをかけて握ったアワビやイクラ、ブリなど旬のネタが入った一人前8カンセット3千食やホツケのすり身と生のりを使ったどっこい積丹鍋、積丹沖で釣り上げたマグロの解体ショー、新



鮮なマグロの海鮮丼4百杯なども振る舞われました。

また今年も、同日に実施された外国人観光事業者を対象にした積丹半島周遊ツアー（後志支庁主催）参加者約10人も神威岬などを見学した後、同イベントで、日本海の旬の味を満喫していました。

12月1日には、第2弾「鍋の競演」が岬の湯しやこたんで開かれました。

地元でとれたブリやソイなど旬の魚を使った鍋を楽しんでもらうもので、町内の民宿や旅館のおかみさんたちが中心となつて、ソイ鍋2種類、ニシンの三平汁、ゴッコ汁、カレー風味のブリ鍋、みそキムチ味のタラ鍋、ホツケすり身のどっこい積丹鍋の7種類、直径80cmの大鍋で合わせて700食分を一杯1000円以上のチャリティー募金として提供しました。

午前11時の開始前には札幌方面からの観光バス3台でやってきた行楽客や開始時間に合わせ入浴を終えた客などが鍋の前面にどんぶりを片手にずらり長蛇の



列をつくりました。コクのあるみそ味や風味豊かな積丹生ノリを散らしたしょうゆ味、ピリツツの鍋から立ちのぼる香りが会場を包み込み、次々とおかわりする客が続出、開始わずか30分で売り切れる鍋もあり、用意した700食分もわずか2時間で完食となりました。

鍋の募金額55、770円は、歳末たすけあい運動義援金として12月13日、佐藤会長から、北海道共同募金会積丹町分会の福井貞吉会長へ手渡され、同分会を通じて交通遺児や独居老人世帯などへ使われることとなります。

コミュニティ助成事業で除雪機購入

除雪サービス事業などの効率化に役立てます

財団法人自治総合センターが毎年、地域の自治活動等を推進するために助成を行っているコミュニティ助成事業で、今年度は除雪機3台（2、300千円全額助成）などを購入しました。当町は、豪雪及び特別豪雪地

域に指定されており、年間平均8mを超える降雪量と3割近くが独居老人世帯であるため、冬期間の生活維持には効率的な除雪作業が求められてきました。今回の小型除雪機3台の整備

が点在する地理的条件を踏まえ、た中で短時間でより効率的な除雪作業が可能となり、地域住民の冬期間における安全で安心できる生活環境の維持向上が図られることが期待されます。

この事業は、同センターが全国自治宝くじの普及広報を目的として行っているもので、社会や暮らしなど私たちの身の回りで役立っています。

